

ドSな椀とドMな文が出てきます

薄暗い一室に、うつむき正座する文とそれを冷やかな目で見下ろす椀

椀は深くため息を漏らすと、文はそれに反応して体をびくりと震わせて顔を上げる

「誰が顔を上げて良いと言いましたか？」

「ヒッ・・・・・・・・すみません」

急いで頭を下げようとするも、椀に髪を掴まれて無理矢理顔を上げさせられる

「痛っ」

「四つん這いになって下さい」

「・・・・・・・・はい」

言われるがままに四つん這いになると、その背中に椀が腰を下ろす

「ぐっ」

「なんですかこの椅子。座り心地が最悪ですね」

椀はつまらなそうに吐き捨てた

「申し訳ありません」

「また白狼天狗の着替えを盗撮したそうですね。ずりネタにでも使うつもりだったんですか？」

「いえ、ただの好奇心です。決してそのような・・・・・・・・」

「五月蠅いですよ」

「ひい・・・・」

椀の細く長い艶やかな指が文の鼻の穴に突っ込まれて、鼻が上に引っ張られる

「あははは、四つん這いになって吊り上げられて、まるで豚ですね。あなた鴉天狗じゃなくて豚天狗なんじゃありませんか？」

文の目の前には大きな姿見の鏡があり、今の自分の醜い姿が克明に映し出されていた

「せっかくの美人が台無しですね」

与えられた恥辱に文は顔を赤らめてひたすら耐える

鏡越しに椀は言う

「今のあなたを他の天狗たちが見たらなんて言うんでしょうね」

「お願い、言わないで・・・・・・・・」

薄暗いはずの部屋が一瞬だけ明るくなる

椀が文のカメラを勝手に使い、鏡に映る自分と文を撮影した

「あなた何をっ！！」

「この写真をばらまいたら、どうなと思います？」

「やめて、それだけは堪忍してください」

「じゃあ、今度は仰向けになってもらいましょうか、そしたら考えてあげます」

嬉しそうにそう言うと、椀は立ち上がり文に寝転がるように促した

文は犬が服従する時のように、椀にお腹を向けて寝転がる

「貧相な体ですね、まあ私もひとのことはいえないですが」

椀の足が文の胸を容赦なく踏みつける

「んん・・・・」

文がぐもった声を出すとすぐに椀は足を離れた

「あっ」

切なそうな声を上げて、文は物欲しそうな目で椀を見る

「なんですか？言いたいことがあるなら口でいってもらわないと」

定番の文句を椀は言って、文を焦らす

「・・・ん・・・で・・・さい」

「聞こえません、そんなに写真をばらまいてほしいんですか？」

「踏んで下さい！私をもっとなじってください！」

椀の口の端は楽しそうにつり上がった、足を高く上げて下ろす

「この変態覗き魔」
「ああっ!!」
「ドMのメス豚」
「ひいん!!」

罵りながら、リズムカルに文の胸を足でこねくり回す

時に乱暴に、時に優しく

椀の足に文は翻弄される

「ハア、ハア、ハア、ハア」
頬を紅潮させて息を荒くする文

「まだ終わらせませんよ」
「はい」

再び、文を正座させて、細いロープを取り出す
文の顔は密かに期待に満ちていた

(えーと、これであってるのかな・・・)

文の体を散々練習した亀甲縛りで縛っていく椀

「ふう・・・ん・・・」

文はロープを股に通されて、物欲しそうに太ももをすり合わせる

縛り終えて、椀はかがみ文と目線を合わせる

「どんな気分ですか？」
「・・・」

恥ずかしそうに顔を背け、答えない文
その文の顎に手を添えて、ついとこちらを向かせる

直後、椀は文の頬をはたいた
濡れたタオルを振った時のような音が狭い部屋に響く

「叩かれて気持ちいいですか？」
「はい」
「この変態!!」

再び乾いた音が響く

右を叩かれたら左を、左を叩かれたら右の頬を文は差し出す

椀の手の動きがオーバートップを切り替わろうとした時、文の様子がおかしいことに気付いた

「どうしました」

文は内股をもじもじさせる

「あ、あの、お、お手洗いに行かせては頂けないでしょうか？さっきから膀胱が」
「そう言って、トイレで一人オナるつもりですか？卑しいですね」
「あのそうじゃなくてほんとうに・・・」

文の言葉が終わるまえに、椀は文の頬を勢い良くひっぱたく

「豚がちょっと前に意見するんですか!？」

「きゃあっ!!」

椀のピンタで文が床に突っ伏す

すると、文は急に泣き出した

(あれ?.....もしかしてマジ泣き?)

自分はやりすぎたのだと自覚し、急いで文の縄を解く
ロープから解放されると文は急いで部屋を飛び出した

しばらくしたら、涙目で文が戻ってきた
完全に二人の興は削がれた

「今日はこちらまでにしましょうか」
「そうですね」

椀と文は一息つく

「あの、文さん.....」
「なんでしょう椀」
「もう止めませんかこういこと」

先程とは打って変わり、縮こまり恐る恐る進言する

「なに言ってるんですか、あなただってノリノリだったでしょう？」
「うー。それはそうなんですけど.....」
「あなたは天性のSなんです。自覚しなさい」

自分がしたことを思い出し赤面する椀

「今度は縄で吊してもっとハードなプレイもいいですね、快樂責めにスパンキングも入れましょう」
文は目を輝かせて提案する
しかし、椀は複雑な表現を浮かべる

「いえ、今以上にハードにするのは文さんにとって余り好ましくないような気がします」

文の目はまだ泣いた余韻で僅かに赤い

「なぜです？私がああ程度で音を上げたからですか？」

それもあると椀は思った

だがそれ以上に、天性の勘が告げていた
『この人は全ての苛め行為を快樂に変換できるほどタフじゃない』と
(れ酷く苛めらると本気で泣いてしまいます、打たれ弱いんです、これ以上は苦痛しか感じない人なんです、あなたは)

椀はそっと心の中だけでそう呟いた

「わかりました、しばらくはソフトをお願いします」
「はい、承知しました」

二人の関係はまだ暫く続く

- 興奮しますた ハアハア -- 名無しさん (2009-06-23 21:34:36)
- 興奮した -- 名無しさん (2009-06-23 23:55:42)
- エロス -- 名無しさん (2009-06-25 22:02:17)
- 抜いた -- 名無しさん (2009-06-29 11:13:46)
- お前らww -- 名無しさん (2010-03-14 15:23:17)
- 時に落ちて着k -- 名無しさん (2010-03-16 01:33:57)
- おっきした -- 名無しさん (2010-03-16 06:11:30)
- 素晴らしい, -- 名無しさん (2010-03-16 07:19:43)
- ふう..... -- 名無しさん (2010-03-16 13:35:27)
- ふうじゃねよwwww
-- 名無しさん (2010-03-16 20:47:32)
- うふふ -- 名無しさん (2010-03-18 00:42:36)
- えへへ -- 名無しさん (2010-03-23 12:35:11)
- あはは -- 名無しさん (2010-03-23 13:57:47)
-ウツ!! -- 名無しさん (2010-03-23 17:51:09)
- ビ'クビ'クビ'ク -- 名無しさん (2010-03-23 19:21:55)
- ヨツンヴァインwww -- 名無しさん (2010-04-30 07:21:49)
- 誰がたいしてうまくないことを言えと -- 名無しさん (2010-04-30 16:46:59)
- これは美味すぎる
文が壊れるまでプレイ希望
-- 名無しさん (2010-06-18 17:32:12)
- 文が耐えきれないなら、俺を虐めてくださいいいい -- 名無しさん (2010-06-18 23:43:46)
- SyameimaruとMomijiなのに逆とな -- 名無しさん (2010-06-19 00:43:02)
- まあ、公式的にもこんな感じかもしれないなw -- 名無しさん (2010-06-25 23:07:31)
- ! ? ww -- 名無しさん (2010-06-25 23:08:28)
- 4いやおれg -- 名無しさん (2010-06-26 18:04:58)
- なにこの変態集団ww -- 名無しさん (2010-06-27 04:30:23)
- 椀かわえー -- 名無しさん (2010-09-02 16:34:17)
- ゴクリ.....いや、ゴキュリ..... ! -- 名無しさん (2010-09-02 17:41:39)
- おうおうおうおう
イアイアイアイ -- 名無しさん (2011-04-10 14:23:27)
- ふう... -- 名無しさん (2011-04-12 07:39:01)
- ふう... -- 名無しさん (2011-05-09 12:13:33)
- あれれ...俺のいちもt -- 名無しさん (2011-05-22 16:12:20)
- おまえらwwwwwwwwふう... -- 名無しさん (2011-05-22 20:53:16)

名前:

コメント: